

釣りの随想：①

男性的な沖ス釣り

趣味

浜田広信（植田）

浦戸湾でなく外洋、それも浦戸に続いた桂浜の竜宮様の下に限る。沖ス（アラ（スズキ科）。スズキに魚体がよく以ており、あたりも同様であるから高知では沖ス（沖スズキ）と言う。スズキとは全然異なり、塩分の濃い外海の岩間を好み生息し、湾内には入らない。釣るときのあたりもスズキと同様でツンと一発だけ。餌はエビの生差し。竿はギリ竿（ギリ竿で、長さは五尺余りのものを使う。仕合いは道糸五号か六号、ハリスは



三号、錘は軽い三匁。釣り方は例の八尋釣り。舟を漕ぎ回して釣る。糸が緩んだときはツンとあたると、糸が張り切ったときはグウと大きく重り込む。そして、舟が回ったときによくあたると、それで回ったときは要注意だ。どちらにしてもあたればスズキ釣り同様大きくしやくる。魚が掛かればグウと重り込んで、なかなか竿は上がらない。魚は岩間に逃げ込む癖があり、相当暴れる。そこがおもしろい。かなり速く舟の方に引き寄せて網ですくわねばならない。それで、男

「ほのぼのの広場」に、あなたの身の回りのほのぼのとした話題や我が家の自慢料理、読書の感想など、お気軽にご投稿ください。
▼投稿先・〒783 南国市大浦甲二三〇一 南国市役所内広報委員会まで。



性的な釣りというところ。

この釣りは、桂浜竜宮様下のマルバエとその東ヒラセに限り、県内ではほかに釣り場を聞かない。毎年、十一月から翌年一月ごろ寒い朝に限る。ちょうど釣りの閑散なときであり、プロがよく釣りに行く。波があればだめ。波があるかないかは浦戸湾口へ行けば分かる。あれば中止、危険でもある。素人は釣りの先輩の舟に便乗するのがよい。
この魚は浦原博士によると一尾余りになるといわれているが、桂

浜ではそのような大物はおらん。大抵二、三から四、五までである。同博士によると、北は北海道から日本各地それから朝鮮、中国沿岸、フィリピンに分布するという。ごく最近の情報によると宇和島沖でアラの大食いがあったとのこと。それでは宿毛湾にも生息していると思う。

おもしろいことにお相撲さんのちゃんこ料理にアラは最高とされている。なんとなれば、牛肉や豚は土で育っているから土は相撲に縁起が悪いと言って、ちゃんこ煮はアラとかクエを使う。
この魚は地方によって呼び名が異なる。高知では沖ス、山陰ではイカケまたはカンナ、長崎ではタラまたはホーセキ、島原ではアラカブなど。

（つづく）

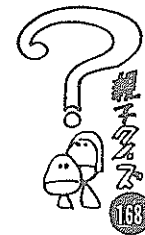
凍結

1

2

1

2



ご家庭で話し合っただけで答えをください。答えは、この広報に出ています。

■もんだい・今年、市内で成人式を迎えた人は、男女合わせて〇百人でした。

■しめきり・2月15日

■あて先・〒783 南国市大浦甲二三〇一 南国市役所内広報委員会親子クイズ係

■答えのハガキには必ず、住所氏名、年齢、職業を書いてください。

■賞品・正解者の中から、抽選で五人に図書券を進呈。

第167回当選者発表（敬称略）

（応募総数31通）

■答え・⑩点

■当選者・五人

垣内佐智子（大浦）

前田香代（片山）

井上真理子（片山）

細川亜也子（十市）

村田小夜子（東崎）